

結婚移住女性のメンタルヘルスと異文化適応に関する臨床心理学的研究

著者	一條 玲香
号	17
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	教博第189号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00121115

いち じょう れい か
一 條 玲 香

学 位 の 種 類 博士（教育学）

学 記 番 号 教博 第 189 号

学位授与年月日 平成 29 年 3 月 24 日

学位授与の要件 学位規則第 4 条 1 項該当

研究科・専攻 東北大学大学院教育学研究科（博士課程後期 3 年の課程）
総合教育科学専攻

学位論文題目 結婚移住女性のメンタルヘルスと異文化適応に関する臨床心理学的
研究

論文審査委員 （主査）
教授 上 埜 高 志 教授 加 藤 道 代
准教授 安 保 英 勇

＜論文内容の要旨＞

本論文は、グローバル化が進み、日本への永住者が増加するなか、日本における結婚移住女性のメンタルヘルスについて、心理的問題とその背景を明らかにし、異文化ストレスおよび精神的健康度を量的視点から分析し、異文化適応の過程について質的視点から考察をおこなったものである。そのさい、これまでになかった多言語による異文化ストレス尺度を開発し、それを応用する。

本論文は、3 部、9 章から成る。

第 I 部・本論の目的は、3 つの章から成る。

第 1 章では、日本における外国人の状況について、在留数の推移、在留資格、外国人政策の側面から整理した。

第 2 章では、結婚移住女性のメンタルヘルス研究について概観した。はじめに移民研究における女性移民のメンタルヘルス研究について、主に欧米の文献から検討した。つぎに近年研究が盛んになってきている韓国、台湾における結婚移住女性のメンタルヘルス研究

について概観した。最後に、日本におけるメンタルヘルス研究を主に精神医学、心理、社会福祉、看護の領域から整理した。

第3章では、諸外国における結婚移住女性研究と比較して、日本における研究が少ないこと、原因追及型の事例研究が多く、成功例や当事者の経験に着目した研究が少ないこと、また長期的視点にたったプロセス研究が必要であることが、先行研究の課題として浮かび上がった。これらを踏まえ、目的1として、結婚移住女性の心理的問題とその背景を把握すること、目的2として、結婚移住女性の異文化ストレスと精神的健康を量的側面から明らかにすること、目的3として、結婚移住女性のライフストーリーから異文化適応の過程について考察することを設定した。最後に、研究の希少性、着眼点の独創性、および臨床への汎用性という点から、本論の意義を述べた。

第Ⅱ部・実証研究は、5つの章から成り、3つの目的に沿った5つの実証研究をおこなった。

目的1のために、外国人相談において研究Ⅰと研究Ⅱを実施した。

第4章（研究Ⅰ）では、外国人相談166名の回答の分析から、長期居住者で、30代～40代の女性からの相談が比較的多く、心理的問題を抱える相談者が一定数いること、その背景として「異文化ストレス」、「配偶者との関係」、「経済的問題」が想定されることが明らかとなった。

第5章（研究Ⅱ）では、延べ2588件の事例の検討から、心理的問題を抱える相談の8割が女性からの相談であり、日本人の配偶者である外国人女性に多く、家庭内不和や離婚を背景とする問題が多いことが明らかとなった。さらにいずれの問題にも異文化ストレス関連していることが示唆された。

目的2のために、研究Ⅲおよび研究Ⅳを実施した。

第6章（研究Ⅲ）では、異文化ストレス尺度を開発し、英語・日本語併記、中国語、韓国語の3種類を作成した。結婚移住女性182名の回答の分析から、結婚移住女性の異文化ストレスは、社会文化ストレス、言語ストレス、離郷ストレスであることが明らかとなり、滞在年数と学歴が日本語能力に影響を及ぼし、日本語能力が言語ストレスに影響を及ぼすことが明らかとなった。

第7章（研究Ⅳ）では、ひきつづき結婚移住女性182名の回答より、精神的健康状態は、諸外国における先行研究と大きく異なることはなかったが、抑うつが疑われる人が約4割おり、結婚移住女性の精神的健康状態が決して楽観視できる状態にないことが明らかとなった。また情緒受領サポート、文化社会ストレス、母国の友人との交流、日本語能力が精神的健康に影響する変数であることが明らかとなった。

目的3のために、研究Ⅴを実施した。

第8章（研究Ⅴ）では、9名に半構造化面接を行い、結婚移住女性の異文化適応過程は、第Ⅰ期は来日から結婚まで、第Ⅱ期は結婚から出産まで、第Ⅲ期は産後から仕事・キャリア形成に注力するまで、第Ⅳ期は仕事やキャリアに注力するから老後について考えはじめるまで、の4つの時期に分けられ、詳細に検討した。異文化適応の過程において想定されるライフイベントおよび保護因子が明らかとなった。また全体を通して、学業や仕事といった限定

された側面での適応から、第Ⅱ期以降結婚することによって、私的な領域においても公的な領域においても日本社会とより深い関係を築きながら適応していく過程が浮かび上がった。保護因子は、同国人や家族によるサポートといった外的リソースだけでなく、内的リソースとして、異文化性の一般化と強調があることが示された。また文化変容態度モデルと照らし合わせて、統合には、時間的なプロセスがあることが明らかとなった。

第Ⅲ部・総合考察は、1つの章から成る。

第9章では、総括と総合的な考察を行った。結婚移住女性のメンタルヘルスにおけるソーシャルサポート、異文化適応における日本人とのネットワークを含めた社会関係資本の重要性、日本語教育支援の重要性と適応段階に応じたニーズに合わせた支援の必要性を指摘した。さらに残された課題と今後の方向性、本研究の意義、心理社会的支援への示唆について論じた。

＜論文審査の結果の要旨＞

今日、世界的にグローバル化が進み、日本に永住する外国人も増加しており、今後もその増加が見込まれている。外国人の移住に関しては、社会学において盛んに調査研究されている。異文化において外国人がさまざまなストレスや葛藤を抱えることは知られている。欧米では移民、日本では留学生のメンタルヘルスについての研究はあるが、日本における結婚移住女性に関する研究はほとんどない。

そこで、本論文は、日本における結婚移住女性のメンタルヘルスに関して、心理的問題およびその背景を明らかにしようとしたものである。メンタルヘルスおよび異文化ストレスについて量的視点から調査分析し、あわせて異文化適応の過程について質的視点から調査研究した。

外国人対象の調査研究は言語の障壁があり、調査研究の実施が困難であるという実情がある。本研究では、異文化ストレス尺度を開発し、英語・日本語併記、中国語、韓国語の3種類を作成した。社会文化ストレス、言語ストレス、離郷ストレスの3因子から成り、その信頼性と妥当性が確認され、今後の応用、研究の発展が期待される。

量的な調査研究により、結婚移住女性の約4割に抑うつが疑われ、精神的健康状態にたいして、情緒受領サポート、社会文化ストレス、日本語能力、母国の友人との交流が影響していることが明らかとなった。

質的な調査研究として、結婚移住女性のライフストーリーに関して丹念なインタビュー調査を実施し、異文化適応の過程について、4つの時期に分けることができ、その内容を詳細に検証することができた。その成果として、各時期の想定されるライフイベント、保護因子を明らかにし、第Ⅱ期以降の共通項目として、日本語能力、日本人・同国人によるソーシャルサポート（道具的・情緒的）、社会関係資本、母国文化の取入れが抽出された。

対象者の出身国が多く、そのため国ごとの対象者数が少なく、また多様な異文化を論考し一般化することの限界が指摘される。しかし、これまで、社会学の領域における移民研究は

あるが、メンタルヘルスに関する調査研究がほとんどなく、異文化ストレス尺度を多言語で開発することができたこと、先駆的にメンタルヘルス研究の第一歩を踏み出すことができたことは、斯界にとって、大きな功績といえることができる

よって、本論文は博士（教育学）の学位論文として合格と認める。